尾崎先生にご指導いただいたこと

遠藤恭平

じねんじょ会の採集会への参加が少なく、不まじめで進歩がない私ですが、会員歴は比較的長いので尾崎先生にたくさんご指導をいただきました。特に印象に残っているのは津南町の植物調査です。穴藤には町の天然記念物「メグスリノキ」があるという話をお聞きして山の方へ入って行くと、大分登った山の斜面に大木がありました。メグスリノキがこんなに大きくなるものかと驚きました。目通り幹周 1.5mのコハウチワカエデや樹齢推定300～350年のヤシオモミジなど巨木の話をお聞きし、津南には珍しい巨木がいたる所にあることを知りました。小松原湿原へ行った時は、きれいな湿原に目を見張りながら、湿原植物を教えていただきました。ただ、私のレベルが低くご指導を受けるに至っていないことと教えていただいてもすぐに忘れてしまうので申し訳なく思っております。そのため残念ながら、ここでも植物のことが詳しく書けません。

津南では先生は車の上から写真を撮られたり、以前から津南町のことを隈無く調べられているご様子で、熱の入れ方が一通りでないと感じました。後で立派な「津南の自然・植物編」が出版されたのを拝見して、先生や牧野さんを初めじねんじょ会員の方々が長年にわたり調査を続けられていた事を知り、研究に対する凄さを感じました。その他、風穴の植物や町のシンボルの「フジキ」、古代米などを教えていただきました。最後の夜は、真っ暗な温泉に入り熊汁を食べ充実した合宿になりました。

黒川村宮下の調査では、初めにカエデ類や林の中の植物を教えていただき、私と学生さんが組んで樹木の枝葉の広がりを調べました。空を見上げて枝葉が根元から東西南北に何ｍ伸びているか計測して、繁茂の様子を図面に記録しました。初めは困難な仕事に思えましたが、学生さんが要領よく記入してくれて順調に調査が進むので張り合いが出て夢中になりました。昼食の時は、奥様お手製の料理やビールを御馳走になりピクニック気分に浸りました。これにも尾崎先生の温かい心遣いとにこやかな笑顔があって、ほのぼのとした思い出です。

新津の秋葉神社の石段脇にあったクリスマスホーリー（輸入の園芸もの）を持って行ったときは、わざわざ調べてくださり'50年サカタ種苗が「紅千鳥」という名前で発売したマルバヒイラギモチであることを教えてくださいました。雄株もある筈とのお話がありましたので、よく調べたら藪の中に雄株が確認できました。

採集会では菅笠などのじねんじょスタイルを崩さない先生ですが、おしゃれでセンスの良さをいつも感じます。奥様と何度も外国へ行かれるなど、人生を楽しまれる生き方に魅かれます。

新津の中野邸にはモミジが多くありますので、ぜひお出掛けください。分類などの学術的なことも大切でしょうが、モミジなどの植物に関する楽しい話をお聞きしたいと思っています。

いつまでも、お元気でご指導くださいますようお願いいたします。

2001年(平成13年)7月30日　月曜日　朝日　三

レッドデータブック発行

絶滅危ぐ 動植物962種 県、生息状況まとめる

県は、県内に生息する動植物で絶滅のおそれがある962種の分布や生息状況などをまとめた「レッドデータブックにいがた―新潟県の保護上重要な野生生物」を作った。関係機関や市町村に配って保護対策に生かすことにしている。

動植物の専門家40人で構成する野生生物保護対策検討会（座長・石沢進元新潟大学理学部教授）が96年度から昨年度まで調査し、環境省の基準に準じて区分した。その結果、絶滅または絶滅危ぐ種は動物で295種、植物で667種あった。

県内ではすでに絶滅したと考えられるのはニホンカワウソやベッコウトンボなど9種。飼育や栽培だけになってしまった「野生絶滅」はトキなど3種。絶滅の危機にある「絶滅危ぐ1類」はイバラトミヨやサドマイマイ、イヌワシなど129種。絶滅の危険が増している「同2類」はトノサマガエルやオニバスなど312種。

県内で特に減少が著しかったのはトノサマガエルやメダカ（準絶滅危ぐ）で、農薬の使用や生活排水による水質汚濁などが原因とされている。

県環境企画課は「今回の調査は保護政策の第一歩。今後も定期的に調べていく必要がある」と話している。レッドデータブックは市町村の図書館や公民館などにも置かれる。また、実費（税込み4200円）で購入することもできる。問い合わせは太陽印刷所（025・382・7651）へ。